

「寝る牛は育つ！」

今年は、“猛暑日”が続いています。皆さんも熱中症にならないよう、体調を維持するためにも、水分、栄養、十分な休息をとるようにしましょう。

牛も同様です。十分な休息がとれる飼養環境は整っているでしょうか。牛の飼養環境を快適に保つことは、牛の健康状態の維持に非常に重要です。今回は、その中でも「牛床管理」についてお話しします。牛がリラックスして寝られる環境を目指しましょう！

＜理想の牛床とは？＞

- ◎ 糞尿がなく、**清潔で乾いている**
- ◎ **クッション性**がある
- ◎ 滑らない



横臥時間の増加 ↑

餌の吸収効率が上がり
増体や繁殖成績の
向上につながる！

糞尿の上に寝たい牛はいません！

糞尿で濡れていたり、敷料が少なく固い牛床では、牛は十分に横臥できず良いことはありません。

- ・牛体が汚れる ・牛体が濡れ、体温が奪われる
- ・アンモニアガスの発生（呼吸器病の発生）
- ・病原体の増加（下痢の発生） ・吸血昆虫の増加
- ・滑りやすい（怪我の発生 最悪、廃用になることも）

これじゃゆっくり寝れないよ…



汚れた牛体



水が溜まった牛床

～目指せ！理想の牛床への3ステップ！～

1 こまめな除糞 - 特に分娩房や子牛スペースはしっかりと！ -

朝晩や1日1回など、牛の寝る場所はこまめに除糞しましょう。特に、生まれたばかりの子牛は、免疫を獲得しておらず、無防備な状態です。分娩房や、親牛の牛体が汚れていると、さまざまな病原菌等の感染リスクが高まります。こまめな除糞は、発情発見のチャンスが増えるメリットも！



2 十分な敷料 - 敷料は「布団」と同じです！ -

昨今の資材高で、節約されがちな“敷料”…ですが、水分調整、断熱性、クッション性のある牛床を作るために重要な資材です。特に、子牛のいるスペースはたっぷり敷きましょう。こまめな除糞で、汚れる敷料を減らし、捨てる量を減らすことで、節約につなげましょう。

敷料は、稲わら、もみがら、麦稈、おがくずなど入手しやすいものでOKです。下に、ゴムマットやお風呂マットを敷くとなおGOOD！



3 しっかり換気 -牛と同じ目線になってみよう！-

アンモニアガスを滞留させないために換気は必要です。アンモニアガスは空気より重く、下に溜まります。少しかがんで、においをかいでみましょう。また、子牛は親牛よりもさらに低い位置にいるので、より影響を受けやすいです。牛舎の開口部をできるだけ増やし、換気扇も上手に使うて舎内の空気を入れ換えましょう。



手作りダクト換気装置

子牛ベッド作ってみませんか？



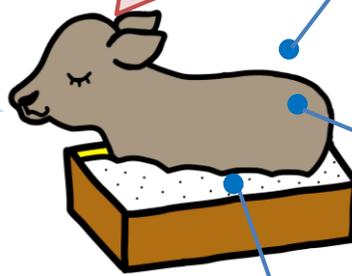
子牛ベッドとは…

- ◎ 敷料を効率良く利用でき
- ◎ 子牛の居場所を確保できる
- ◎ 断熱・保温性に優れた子牛用の寝床

<作り方はとっても簡単！>

- 75~80cm×15cmのコンパネ板4枚を組み合わせ、枠を組み立てて完成
- * 四隅は垂木を10cm程度打ち付けて補強
- * 底板は掃除の邪魔になるので取り付けない

とってもあたたかくて衛生的だから下痢も減ったよ！



子牛が安心して寝れるように分娩房を仕切るなど親牛が入れないような工夫をする

子牛のお尻が、少しはみ出る程度のサイズがオススメ
糞尿がベッドの外側に落ち、ベッドが汚れづらく衛生的！

敷料が少なく済み、節約に！

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

○ 分娩後の子牛の処置について

マニュアルのダウンロードはこちら→



1. 呼吸の確認

子牛が生まれたら口周りの粘液等を除去し鼻孔を刺激するなどして、呼吸の有無を確認しましょう。呼吸していない場合は、牛体マッサージや人工呼吸（人工呼吸器の活用）等で自発呼吸を促します。



3. ヘそ（臍帯）を消毒する

臍帯炎の予防のため、ヨード系消毒液で臍帯を消毒します。臍帯は3指幅（5cm程度）を目安に切ります。臍帯が乾くまでは子牛が寝る部分を中心にこまめに敷料を交換し乾いた牛床を維持しましょう。



2. 子牛を乾かす

呼吸の確認後は、母牛が子牛を舐める（リッキング）よう誘導します。リッキングはマッサージ効果があり、呼吸や血液循環、排便の促進など子牛に重要です。特に冬場はカーフウォーマー等を利用し牛体の乾燥を優先すると、初乳の飲み具合が良くなることが多いようです。



4. その他

鉄+ビタミン投与

妊娠期の母牛の栄養充足が十分でない場合、子牛が貧血状態で生まれることがあります。「生後15日前後で白痢になる」「生後1か月経っても大きくなった気がしない」等、鉄+ビタミンA D₃ E 製剤の投与で改善する場合がありますので、獣医師に相談ください。

鼻腔粘膜ワクチン

哺育期及び離乳後に呼吸器病が多発する時は、鼻腔粘膜ワクチンの投与が有効な場合があります。獣医師に相談ください。



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451
一関農業改良普及センター 0191-52-4961

